

2018年FIA-F4選手権シリーズ第5大会 参戦報告書

HFDP事務局 阿部 正和

2018年FIA-F4選手権シリーズ

HFDP参加選手レポート

第5大会(第9戦/第10戦) 参戦レポート

富士スピードウェイでの第4大会から6週間、2018年FIA-F4選手権シリーズ第5大会(第9戦、第10戦)が9月15日から16日にかけて、宮城県・スポーツランドSUGOで開催された。このレースに、Hondaフォーミュラ・ドリーム・プロジェクト(HFDP)ドライバーとして#5角田裕毅(18歳)、#6名取鉄平(18歳)、SRSスカラシップとして#7大滝拓也(22歳)、#8佐藤蓮(17歳)の4名が参加した。

名取、角田が連勝、チャンピオンに王手。

■公式予選(30分間) : 天候/くもり 路面/ドライ



天候悪化が予想されていたが朝のうちは雲が垂れ込めるものの路面はドライコンディションで午前8時10分から公式予選が始まった。HFDPの4選手は早々にコースインするが、走行開始直後のS字コーナー付近で#8佐藤が#7大滝の後部に追突して2台が絡み、#7大滝は左リヤタイヤを壊してピットへ戻りタイヤ交換を行った。このとき#7大滝はマーキングのないユーズドタイヤに交換しコースに復帰したため、その後規則違反を問われてセッションのタイム抹消処分を受けることになった。

セッション開始10分を待たず、#5角田が全セクターでベストタイムを記録して圧倒的なラップタイムを記録しトップに立った。これを#6名取、#1小高一斗選手、#98石坂瑞基選手らが追いかける展開となったが、#5角田は好調で、ライバルの追従を許さずことなくさらにラップタイムを短縮、セカンドベストタイムでも他を引き離れた。



セッション開始後15分で#7大滝がSPコーナー立ち上がりでスピンオフして停止したため赤旗でセッションは中断となった。残り12分でセッションが再開されたが、コースレコードを記録していた#5角田はタイヤを温存するため早々に走行を打ち切りピットへ戻った。それ以降も#5角田のタイムに追いつく選手は現れず、#5角田は第9戦、第10戦ともポールポジションを獲得。また#6名取が第9戦、第10戦とも2番手につけHFDP選手が2戦ともフロントローを独占することとなった。#8佐藤は第9戦で10番手、第10戦で11番手となったが、

#7大滝はタイム抹消ペナルティを受け2戦とも最後尾スタートが決まった。

第9戦公式予選結果

予選1位 #5 角田 裕毅 1分23秒463 (コースレコード)
予選2位 #6 名取 鉄平 1分24秒040
予選10位 #8 佐藤 蓮 1分24秒507
予選27位 #7 大滝 拓也

第10戦公式予選結果(タイムアタックのセカンドタイム順に決定)

予選1位 #5 角田 裕毅 1分23秒491 (コースレコード)
予選2位 #6 名取 鉄平 1分24秒118
予選11位 #8 佐藤 蓮 1分24秒730
予選27位 #7 大滝 拓也

■第9戦決勝レース(15周) : 天候/曇り 路面/ウェット



ドライコンディションで終わった公式予選後、雨が降り始めてコースはウェットコンディションとなったが、午後0時を過ぎシリーズ第9戦の決勝レースが始まる頃には雨はほぼ止んでいた。とはいえコースはまだウェットコンディションで、全車レインタイヤを装着してコースインした。しかしダミーグリッド上で10番手の#8 佐藤のみがドライタイヤに交換、スタートに臨んだ。

午後0時55分、15周の第9戦がスタートすると、ポールポジションにいた#5 角田がうまく加速し先頭に出ると、#6 名取、#63 川合孝汰選手、#62 小倉祥太選手が続いた。#5 角田は2番手#6 名取との間隔を開いて1周を終えたが、3周目に入るとペースが鈍った。この頃にはコースが乾きだしており、#5 角田は逆にコンディションの悪化を予想してタイヤの内圧を高め設定していたためタイヤが過熱してしまったからだ。



一方、10番手からドライタイヤでスタートした#8 佐藤は一旦11番手に順位を下げたものの、コースが乾くにしたがってペースが上がりはじめた。トップを走りながら苦しい走りとなった#5 角田は5周目の2コーナーで周回遅れのマシンがスピン、これを避けようとした際、#6 名取にインを取られ、トップの座を明け渡した。その後も#5 角田のペースは上がらず6周目には#63 川合選手の先行も許して3番手へ後退した。

路面はますます乾き、1人ドライタイヤを履いた#8 佐藤のペースはますます上がり、5周目には9番手、7周目に8番手、8周目には6番手、と周回毎に順位を上げ、10周目には#5 角田をかわして3番手に上がり、12周目にはトップを走る#6 名取に追いついて馬の背コーナーのイン側に飛び込みオーバーテイク、とうとうトップへ躍り出た。





残り3週の段階でトップに浮上した佐藤は、その後も2番手#6名取との間隔を開いていき、19秒もの大差をつけて15周を走りきりチェッカーフラッグを受けた。ところが、レース中に黄旗区間で周回遅れのマシンをオーバーテイクしたとしてタイム加算ペナルティを受け、正式結果での順位は10番手に降格となった。優勝は繰り上がって#6名取となり今季2勝目を上げることとなった。#5角田は3位に入賞した。

最後尾からスタートした#7大滝は、1周目一気に17番手へ順位を上げるとオーバーテイクを続け、レインタイヤで出走した選手の中でベストタイムを記録、6位入賞を果たした。このレースでHFDPの選手は4人揃ってシリーズポイントを獲得した。

【FIA-F4選手権シリーズ第9戦・レース結果】

#6名取 鉄平 決勝1位 (23分37秒830 ベストタイム 1分32秒982)
#5角田 裕毅 決勝3位 (23分42秒707 ベストタイム 1分32秒366)
#7大滝 拓也 決勝6位 (23分50秒441 ベストタイム 1分32秒150)
#8佐藤 蓮 決勝10位 (23分55秒310 ベストタイム 1分27秒097)
(#8佐藤はドライブスルー相当の37秒加算ペナルティを受けた)

■第10戦決勝レース (15周) : 天候/晴れ 路面/ドライ



前日から一転、16日曜日のスポーツランドSUGOの上空は早朝から爽やかに晴れわたった。第10戦決勝レースは、午前9時にフォーメーションラップから始まった。

スタート合図でポールポジションから#5角田が飛び出し、#6名取、#63川合選手、#16澤田真治選手、#62小倉選手、#1小高選手が続いた。#5角田は猛然とペースを上げ、わずか1周で2番手の#6名取に2秒の差をつけ、さらにその差を開きにかかった。

#6名取は後方から#63川合選手の攻撃を受けたがじりじりと間隔を開いて2番手のポジションを確保。一方、11番手からスタートした#8佐藤、最後尾からスタートした#7大滝はペースがよく、順位を次々に上げていった。8周目の第1コーナーで、#8佐藤、#7大滝はそれぞれ勢い余ってオーバーランするが順位を落とすことなく走り続けた。



結局#5角田は独走状態に入りながらただ1人1分23秒台に入るペースで突進、2番手#6名取に対し大差を築いて15周を走りきり今季6勝目を挙げた。2位には#6名取が入賞、#8佐藤は8位でフィニッシュ、シリーズポイントを獲得した。

#5 角田は第9戦で15点、第10戦で25点を加え通算得点198点としてランキングトップの座を守った。#6 名取は第9戦で25点、第10戦で18点を加え通算得点158点でランキング2番手へ浮上した。この結果、チャンピオン争いは#5 角田、#6 名取、#1 小高選手の3人に絞られた。

【 FIA-F4 選手権シリーズ第10戦・レース結果 】

#5 角田 裕毅 決勝1位 (21分12秒757 ベストタイム 1分23秒913)
#6 名取 鉄平 決勝2位 (21分20秒371 ベストタイム 1分24秒547)
#8 佐藤 蓮 決勝8位 (21分30秒575 ベストタイム 1分24秒746)
#7 大滝 拓也 決勝14位 (21分39秒803 ベストタイム 1分24秒862)

■2018FIA-F4 選手権シリーズポイントドライバーランキング (第5大会終了時点)

1位 角田 裕毅 198点
2位 名取鉄平 158点
7位 佐藤蓮 46点
13位 大滝拓也 27点

(1位25点、2位18点、3位15点、4位12点、5位10点、6位8点、7位6点、8位4点、9位2点、10位1点、)

■2018FIA-F4 選手権シリーズポイントチームランキング (第5大会終了時点。各チーム最上位のみ計上)

1位 HFDP 236点

●ドライバーズコメント : #5 HFDP/SRS/コチラレーシング 角田 裕毅



予選まで、自分の予定通りで良い流れでした。第9戦決勝では雨になってレインコンディションになるのは予想していたんだけど、天気予報をこまめに見て、この後レースで雨が降るのかどうかを考え、空気圧を高めにしてスタートしました。



内圧はメカニックと話し合って自分が決めました。周囲は下げていたようなので、あれで雨が降ればぼくが有利だったんです。でもコースインした段階では結構濡れていたのですがフォーメーションラップしているときから変わり始めて、まずいかなと思いました。スタートしたら急速に乾いてしまい、苦しくなっていました。第10戦は、本当に昨日のストレスを晴らしながら自分で満足のいく走りもできたので、良かったと思います。メカニックやチームにいろいろ迷惑かけた分、その恩返しができただけかなと思います。

●ドライバーズコメント：#6 HFDP/SRS/コチラレーシング 名取鉄平



スポーツランド SUGO でレースをするのは初めてでした。練習の1日目は、角田選手からコンマ5秒の差がありましたが、2日目はほぼ同じに追いついて、予選には期待しました。



でも予選アタックでは結局コンマ5秒の差がついてしまいました。何が足りないのか反省します。第9戦決勝は、コンディションが読めない中、同じレインタイヤという条件ではペースも良く優勝できたんですが、（佐藤）蓮がひとりだけスリックを的中させていたので、自分も守りに入らずもっと積極的に試していくことも必要かなと思いました。第10戦は、スポーツランド SUGO は抜けないコースなのでオープニングラップで勝負かけるしかないと思っていました。でも前を狙ってスタートしたらレインボーコーナーでフルカウンターの当てることになってしまって逆に後から迫られて、それを守るうちに前の角田選手との間が開いてしまいました。それ以降のペースは悪くなくて後の選手との間隔を開くことは出来たのですが、角田選手に比べると遅かったのでオートポリスに向けては改善していかないとはいけません。オープニングからのリズムの作り方が課題です。

●ドライバーズコメント：#7 SRS/コチラレーシング 大滝 拓也



得意な地元のレースでこんな週末を送ることになるとは想像していませんでした。そもそもは予選で後からぶつけられたところから流れが悪くなってしまったんですが、あの接触は防げたと思うんです。ア



ウトラップだったので、注意が甘くて後から何が来るのかまで気にしていませんでした。レースでのペースは良かっただけに正直悔しいです。もったいない結果になってしまいました。第9戦も第10戦も、最後尾から追い上げるレースになってしまったんですが、後からスタートしたら変に気負うことなく走れたので、逆に冷静に自分の走りを感じながら走ることができました。ああ、自分はこういうときにこういうミスをしているのかということがよく見えて、多くのことを学びました。結果としてはゼロでしたがぼくの中では中身の濃い週末でした。

●ドライバーズコメント：#8 SRS/コチラレーシング 佐藤 蓮



木曜の練習走行で経験したレインコンディションからの乾き具合を思い出して、土曜日の第9戦決勝レースでは路面が速く乾いていけようかと予想してひとりドライタイヤを選択して成功しました。まだ路面が濡れて



いた最初の数周さえ耐えれば後は絶対に乾くと思っていたので、ギリギリでしたけど決めました。3周目に「これは勝った」と思いました。序盤に耐えられたのが良かったです。でも黄旗の見落としという致命的ミスをおかしてしまいました。大きな反省点です。第10戦では、第9戦から使っているタイヤを使ったので摩耗的に厳しいかなと思ったんですが、それでもペース的にはかなり良かった。やはり予選順位をしっかりと前にすることが重要だなと改めて実感しました。今回は自分としてもつかんだところがあるので、次回は今回の勢いに乗って予選に行きたいです。